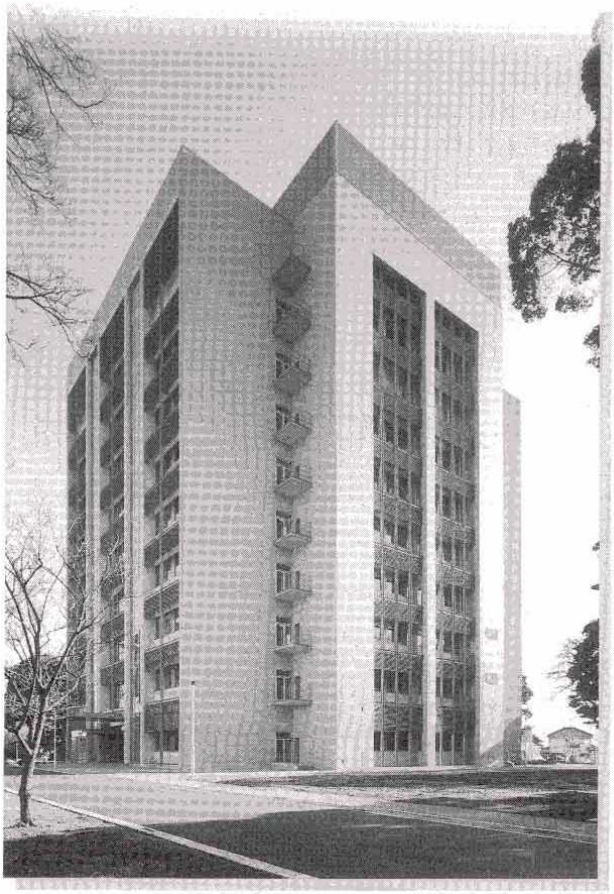
14
2004. 5

薬友会報

千葉大学薬友会

完成！第一期医薬系総合研究棟 －*新たな飛躍へ*－



北西面ファサード

6階　分子画像薬品学　合成・科学実験室

玄　関　ホ　ー　ル

薬友会会長挨拶	2	支部だより	11
新任教授挨拶	2	亥鼻会・ゐのはな山岳会・サークル紹介	12
国立大学法人千葉大学の船出	3	学部だより	13
退官に際して	3	受賞・学会賞受賞	13
特集：医薬系総合研究棟	4	博士学位授与一覧	14
研究室紹介	5	教員の異動	15
萩庭標本データベース作成協力会	6	薬友会より	15
岩城謙太郎元同窓会長を悼む	6	生涯セミナー	16
クラス通信	7	編集後記	16

千葉大学　薬学部・大学院医学薬学府 大学院薬学研究院

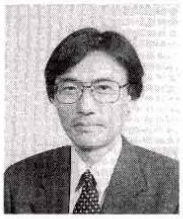
Chiba University

Faculty of Pharmaceutical Sciences
Graduate School of Pharmaceutical Sciences

薬友会会長挨拶　山本　恵司

創立114年目の春、千葉薬は創設の地・亥鼻ヶ丘に帰って参りました。すでに200名に及ぶ教職員・学生が研究活動を開始しており、第２期工事の実現が待たれるところです。１日も早い全面移転に向けて全力を尽くしたいと存じております。今春４月１日には千葉大学を含む全国の国立大学が法人化され、新しい時代、歴史を歩み始めました。この大学改革は小泉内閣の実施している構造改革・財政改革の一環ではなく、20世紀型の高等教育特に国立大学の仕組みを変革し日本が当面するいろいろな問題を解決するための新しい大学作りを目指すものです。緊縮財政を理由として改革の変質が見え隠れしてはおりますが「１つ１つの大学が自らの意思と主体性をもった大学運営」「真に社会に役立つ大学の創造」の理想に合った道を選択して行きたいものです。人材育成、優れた研究、あらゆる意味での社会貢献が大学の使命であることを肝に銘じて、大学の基本的方策が決定されるしばらくの時期を注意深く過ごさねばなりません。一方、現在国会で審議中ではありますが2006年春よりの薬学６年制への移行は本学部の社会的役割、薬学生１学年１万数千人時代においての薬学部の在り方を改めて考える良い機会と思っております。薬剤師の育成、薬学研究者の養成を共に教学の理念として掲げている本学として、高齢社会後の未来の日本を見据えた長期的ビジョンにより、とるべき道を決定することとなります。薬友会会員諸賢のご意見、ご提案、益々のご鞭撻を心より期待しております。

新任教授挨拶　高山　廣光



平成16年４月より、相見則郎教授の後任といたしまして生体機能性分子研究室を担当することになりました。伝統ある本学部で大任をお引き受けすることとなり身の引き締まる思いが致します。薬友会報の紙面をお借りいたしまして皆様にご挨拶申し上げます。

当研究室は千葉大学名誉教授であられる坂井進一郎先生の研究の流れを引き継ぎ、平成６年より相見則郎先生の主宰のもと研究室名も新たにスタートいたしました。創薬素材開拓の先端を務める天然分子とその化学について有機化学を基盤とした研究を進めてまいりました。ポストゲノム時代が到来し、生命科学を指向した昨今の薬学研究の中にあって、多様な分子構造と多彩な生物活性を持ちあわせている天然有機化合物の役割はますます重要なものとなっています。これからも創薬シード分子探索からリード化合物創製まで（毒を変じて良薬と成す）を主な守備範囲に、オリジナリティの高い研究成果を世界に発信していきたいと張り切っております。とともに、有機化学・天然物化学の教育と研究を楽しみたいとも思っております。

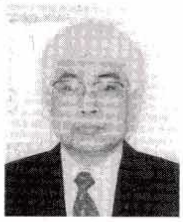
大学におきましても時代の趨勢は競争と評価ですが、心通いあう環境で学生時代を過ごした経験が薬友会繁栄の礎を築くものと信じております。優れた資質を持った大学院生やバイタリティ溢れる学生から日々パワーを頂戴している分、彼らにとっても意義深い学生生活が送れるよう力になりたいと考えています。

この４月から国立大学が法人化され、さらに薬学教育６年制への大改革を目の前にして、取り組むべき課題が山積しておりますが、薬学の教育と研究の更なる発展のため最善を尽くす所存でございますので、今後とも、薬友会の皆様のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

（ＰＳ：昭和52年卒業の同期の皆さん、お元気ですか？久しぶりに同窓会をやりましょう。Ｋさん、Ｎ君、よろしくお願いします。）

国立大学法人千葉大学の船出

元副学長　五十嵐　一衛



この原稿は副学長として書いていますが、薬友会報が皆様に届く頃は亥鼻キャンパスで一学徒として教育・研究に従事している自分を想像し、少しですが開放感に浸っています。

さて、大学はいよいよ独立法人化されました。決定的な違いは、これまでは学部を代表する評議員より構成された評議会が議決機関であったのに対し、今後は学長を頂点とする少人数からなる役員会が議決機関となることです。従いまして、これからの大学運営には、学長の強いリーダーシップが必要となってきます。日本国の財政逼迫と大学改革の必要性より大学が独立法人化されたわけですが、毎年交付される大学予算が減少していくことは間違いないと思います。千葉大学として教育・研究を充実させるためには、外部資金の獲得が至上命令となります。まず第一に、文部科学省やほかの省庁が公募します競争的資金の獲得を目指さなければなりません。その代表的なものが文部科学省のＣＯＥ（Center of Excellence）の選定ですが、昨年度は千葉大学では３分野でＣＯＥに採択されました。今後も千葉大学として多くの分野でCOEの獲得を目指し、オリジナリティーの高い研究と個性豊かな人材を育成する教育を活発に展開していく必要があります。将来的には、ＣＯＥは高校生の大学志望にも強い影響を及ぼすものと思います。大学の教育・研究の質の向上、とりわけどの分野を充実させるかに関しても、学長の強いリーダーシップが要求されると思います。千葉大学の“ゴーン氏”が待望されます。

薬学研究院としては、法人化と時を同じくしてその一部が亥鼻キャンパスに所を移します。第２棟の一刻も早い着工を目指すと共に、千葉大学独自の薬学部構想を打ち出す必要があると思います。薬学部も競争時代に入りましたが、社会が薬学に望んでいるものに対する誠実なる対応が基礎薬学の充実と共に大事になってくると思います。先輩諸氏の暖かいアドバイスと御支援を受け、千葉大学薬学研究院が益々充実してゆくことを切望しております。

退官に際して

生体機能性分子研究室　相見　則郎

千葉大薬学部での年月を満腔の感謝の思いで思い返します。着任が昭和42年、学部の西千葉移転の翌年でした。それから今日までの36年間、学部が一丸となり大きく発展してきた輝きの時期に居合わせることが出来たことを、この上なく幸せなことと思います。

坂井進一郎先生の下の講師が私の出発点でした。研究、教育に関する数々のエピソード、武勇伝に彩られ、名声赫赫たる30代後半の坂井教授の前におずおずと立った自分を懐かしく思い起こします。坂井先生には学問内容と一緒に研究と取り組む姿勢と気迫を教わりました。ご自身の趣味の渓流釣りになぞらえて、ここぞと思う淵に自分が狙いをつけるときその読みに寸分の狂いはない、そこには必ず大物がいる、狙った獲物は絶対に逃がさない、と拳に力を入れて語る言葉に研究スタイルに対する確固とした自信と信念、けれん味のかけらもない研究者魂を教わりました。

もう一人忘れようとしても忘れられないのが萩庭丈壽先生です。手元に先生からの最後の葉書があります。世を去られたのが平成８年８月24日なのですがそのわずか18日前、８月６日付の葉書です。お願いしていた鹿児島への採集行を健康状態、膝痛から見合わせるという連絡に続いて、

『「自らの研究材料は自らの手で採る」との御心掛は近頃尊いものと将来の可能性も考へ採集地など「眼の黒いうち」に御傳へ出来るものは御傳へして置きたいと思ひますが老化、耄碌が急速に襲って来た今日、時期は去った様です。でも人生の醍醐味は意の如くならない處にあると云ふことを痛感する昨今ではあります。（以下略）。』

とあります。読むごとに粛然襟を正す思いがします。それより何年か前のこと、沖縄万座毛の切り立つ海岸壁の上に立って眼の下のわずかな岩の張り出しに目当ての植物の一茎を見つけた先生ですが、さすがに足場が悪く、あまりに危険で断念せざるを得ませんでした。せめて網膜の裏側に焼き付けようとしているかのように、野草を凝視したまま巻いて吹き上げる強風の絶壁に立ちつくす姿には一種鬼気迫るものすら感じました。

こういう偉大な先人の精神を受け継ぐ千葉薬です。更なる発展を確信しています。

衛生化学研究室　坂井　和男

退官の挨拶など、私にとって本会報の末ページの欄外にでも一行、記載してくだされば十分と思うのですが、このようなことを書く立場にないと内心思いながら筆をもっています（２月下旬）。これが皆さんの目に触れるころには、私の環境は一変しているのかと思うと、不思議な気持ちになります。最近ときどき耳にする、いわゆるスローライフな生活環境におかれて、自分流を維持できるのかどうかなと自身に興味を抱いています。

本学では今（２月）、亥鼻移転（第一期）の準備の真只中、また４月からの法人化に向けての諸々の対応など、鈍感な私にも大変さが痛いほど感じられます。この時期に私のことなど書く気分にもなれませんが、あえて一言をといえば、私個人としては昭和41年に亥鼻（現付属病院あたり）から西千葉に移転する手伝いをするとともに、職員の末席に入れてもらい、新しい建物（移転前は古い木造）に若さも手伝って、はりきって夜遅くまで実験していたのを思い出します。当時、夕方になると周辺の他学部の建物は消灯して暗く、びっくりしました。幾年か過ぎたころ、周辺の建物のあちこちの窓が夜遅く灯火で明るいのに気づきました。

時代は変わりましたが、若いスタッフの皆さんの意気込みが、本学をますます発展させるものと期待しております。

教職員の皆さま、卒業生の皆さま、学生の皆さん、いろいろとありがとうございました。

末筆ながら皆さまのご健康と一層のご発展をお祈り申し上げます。

特集　医薬系総合研究棟

満開の桜に迎えられて、亥鼻キャンパスに新築された医薬系総合研究棟での教育・研究が始まりました。薬学研究院（薬学部）の亥鼻キャンパス移転特集記事（五十嵐教授）（12号）、経過と現状報告（石川教授）（13号）でお知らせしました医薬系総合研究棟は、2003年11月に竣工し、千葉の街を一望する亥鼻の丘で一番高い建物として聳えています。薬学研究院22研究室のうち第一期移転12研究室の新研究棟への引越しが2004年３月下旬に完了しました。地下１階、地上10階建ての薄いベージュ色の近代的な外観の中にも落ち着いた雰囲気を感じさせる、建築面積1,456.74㎡、延床面積11,393.70㎡ の鉄骨鉄筋コンクリート造りです。平面構成を紹介しますと、実験研究スペースは固定間仕切りが少なく、各研究室の要望が反映された間仕切りで、フリーアクセスフロアー（他の階に影響を与えずに同一フロアー内でレイアウトの変更・設備配管の更新可能）とし、将来の設備機器の増設に対応できるメカニカルスペースが建物外部側面に設けられています。各階には人の往来の多いエレベーターや階段と一体的にすることによりコミュニケーションが日常的に行なえるようにリフレッシュコーナーが設けられています。建物中央部に吹抜け構造をとり自然光を取り入れたことで中廊下の閉塞感を緩和させるライトコートを設けました。このライトコートを中心としてロの字型に南北に研究室などの一般居室を、東西に実験研究スペースを配置する形態がとられています。１階には広々とした明るいエントランスホールが設けられています。また移動空間（階段・廊下・エレベーター）は、ライトコートや外部に面して設けられており、自然光や通風を感じながら移動できる快適な空間となっています。

建物構成を紹介しますと、１階から６階は薬学関連のスペースです。各研究室の他に実験動物飼育施設（１階）、中央機器室（各階）、共同利用セミナー室（２、４、６階）、低温室（３、５階）、培養室（２階）などがあります。６階の半分にはＲＩ実験スペースがあり、フロアーでＲＩ管理区域を明確化し、高い安全性が確保されています。７階と８階の半分は全学共用スペースで一定期間のレンタル実験研究スペースとして利用されます。８階の半分と９階はバイオメディカル研究センターであり、高度な（P3レベル）研究設備が完備されました。地下１階と10階は設備スペースとなっています。

この優れた環境で、従来からの基礎薬学の研究を充実と、さらに医学部、看護学部、真菌医学研究センターと共同してライフサイエンス、医療薬学に関する研究を発展させ、薬学が大きく飛躍できるよう薬学研究院一同大いに励む所存でありますので、薬友会会員の皆様にはご支援の程よろしくお願い申し上げます。また晴れた日には富士山が見える眺望の素晴らしい、充実した医薬系総合研究棟を是非訪れていただきたいと存じます。

（文責　堀江利治、石井伊都子、佐藤信範）

10F 空調機器室
9F バイオメディカル研究センター
8F バイオメディカル研究センター 共同利用研究室
7F 共同利用研究室
6F 分子画像薬品学　ＲＩ実験室
5F 衛生化学　薬効薬理学
4F 分子細胞生物学　薬物学
3F 病院薬学 生化学 生物薬剤学
2F 医薬品情報学 病態生化学
1F 高齢者薬剤学 薬物治療学

ライトコート

研　究　室　紹　介

病態生化学研究室

当研究室は五十嵐一衛教授、柏木敬子助教授、西村和洋助手の３名のスタッフと、大学院生16名（博士後期課程７名（うち社会人２名）、博士前期課程９名）、４年生５名、研究生１名、秘書１名の計26名で構成される研究室です(ホームページはhttp://www.p.chiba-u.ac.jp/lab/rinka/です。月に一度は更新されていますので是非御覧下さい)。

現在、当研究室では細胞増殖に必須な生理活性物質であるポリアミンの生理機能解明をメインテーマに、各スタッフは勿論、院生・学生も独立して個々の研究テーマを遂行しています。その研究フィールドは遺伝子発現、蛋白質合成、細胞周期、個体発生、脳機能、各種疾患等々、多岐にわたり、これまでにポリアミンが生命活動に果たす様々な役割を分子レベルで明らかにしてきました。

今春の大学独立法人化に伴い、知的財産の活用という言葉をよく耳にするようになりました。特に我々のような生物系研究室においては、これまで馴染みの薄かった特許というものを前向きに考える時代が来ているのかも知れません。これまで培ったポリアミン基礎研究の成果を基に、人々の生活の質を向上し得るものの開発に繋げること、そして“ポリアミン”を世に認知して頂くことが我々の目標です。

“研究重視”“人の1.3倍以上の努力”という研究室の指針を胸に、研究室一同、更なる努力をして参りたいと思います。

これからも皆様の御指導、御鞭撻を宜しくお願い申し上げます。　**（富取　秀行）**

薬効薬理学研究室

当研究室は薬学研究院への組織変更に伴い研究室の名称を変更いたしましたが、旧「薬品化学研究室」の流れを汲んでおります。現教授村山俊彦が平成12年に北海道大学大学院薬学研究科より赴任し、当研究室を新しくスタートさせました。本年度３月には慣れ親しんだ西千葉薬学部２号館４階の研究室に別れを告げ、亥鼻新校舎５階に研究室を移しました。現在の研究室メンバーは、村山教授、堀江俊治助教授、平林哲也助手のスタッフと、学部４年生４人、大学院博士前期課程８名、後期課程１名で構成されています。

当研究室では生化学、分子生物学などの最先端手法を導入して、高次機能に連結する神経細胞シグナル伝達の薬理学的解明を行っています。特に神経細胞におけるホスホリパーゼA_2によるアラキドン酸代謝機構の解明には大きな力を注いでいます。アラキドン酸は逆行性神経伝達物質として記憶や神経細胞死に関与することが知られており、製薬企業でもホスホリパーゼA_2をターゲットとしてさまざまな新薬を開発しようとしているところです。最近では細胞内ホスホリパーゼA_2のライブイメージ観察を通して、スフィンゴ脂質、活性酸素、カプサイシンなどの刺激によるアラキドン酸代謝機構や、ホスホリパーゼA_2サブファミリーを介するシグナル伝達機構を明らかにし、その成果を次々と国際ジャーナルに報告しています。

研究室のセミナーとしては、ペーパーを紹介する文献ゼミ、研究成果を報告するプログレスレポートと、学生主催のテクゼミ（新しい実験技術の勉強）を行っています。どのセミナーも激しいディスカッションが行われ、発表者も聞いている人も研究者としての素養が日夜鍛えられております。

当研究室は新体制で船出したばかりの若い研究室です。今後とも同窓生の方々の暖かいお力添えとご鞭撻をお願い申し上げます。　**（村山俊彦、堀江俊治）**

萩庭標本データベース作成協力会からの報告

生薬学の故萩庭教授が生涯をかけて全日本レベルで採集・作成された５万点余の顕花植物標本（薬学部所管）のなかには、絶滅種や絶滅危惧種、さらには日本固有種などが数多く含まれており、世界的にも貴重な植物資源であることが判明したが、標本リストが未整備だったことから、同教授と縁の深かったゐのはな山岳会の有志ら卒業生がボランティア活動でそのデータベース化作業を行うことを決定、実現のための会を結成したことは、本誌で報告し、あわせて浄財寄付のお願いをした。

それから６年余、延1,176名、延265日にわたる地道な作業の結果、所期のデータベースが一応完成したので、これを標本写真とともに薬学部のホームページに収載して公開(http//www.sakuyou-p.chiba-u.ac.jp)、同時期に行われた日本薬学会（第122年会）で展示・報告し、同標本をベースとしたシンポジウムも行われた。

それ以降もデータベースの校正と追加情報の入力ならびに標本の補修などの管理作業が月１回のペースで継続されている。2003年度の年次総会（本年３月20日）での総括報告、決定事項は下記のとおりである。（数値は会結成以来の累積実数）

〔作業人数〕卒業生：延1,299名、学生アルバイト：528名（写真撮影・校正）

〔会　　計〕収入：3,003,625円、支出：1,761,735円（パソコン、プリンタ、学会用、等）

〔活　　用〕ホームページへのアクセス：6508人（2004年３月23日現在）
米メリーランド州ソールズベリ大から一部標本の貸与要請

〔2004年度の主な計画〕

・データベースの校正と情報追加など（本年度の継続）

・学内外からの標本貸与／分与依頼への対応ルール案策定、学部長へ提言

浄財を寄せられた薬友会各位にたいして深甚の謝意を表します。　　会長　福原 正（昭33卒）

岩城謙太郎元同窓会長を悼む

昭和33年卒　千葉大学名誉教授　**渡　辺　和　夫**

平成15年11月に逝去された岩城謙太郎氏は、千葉大学薬学部が永遠に忘れてはならない偉大な先輩である。長年本学部同窓会長として大きな貢献をされたのは云うまでもないが、岩城製薬の社長として、薬業界において、高い識見と手堅い経営手腕で名声を知られると共に、岩城奨学会をはじめとする多面的な文化活動を行う社会的リーダーであり、千葉大学薬学部卒業生を代表する人物として、社会における同窓生のステイタスシンボルとなる存在であった。氏はご逝去の12年前の平成３年に、ご自分の生涯を総括されて、『ふりむけば』と題する自分史を出版されている。そこには、日本橋本石町の薬問屋の長男として1919年に生をうけ、大病を経験した学生時代を経て兵役からシベリア抑留生活を含めての生活が、大正・昭和・平成の歴史と共に歩んだドマチックな波乱の人生として貴重な記録写真と共に手際よくまとめられている。その中の『母校賛歌』の章で、猪之鼻の千葉薬学専門学校での学生生活が愛惜をこめて語られている。その薬学への思い入れを同窓会長としての役目に活かされて、今日の薬友会の基礎を確立されたのであった。精勤された同窓会の役員会、総会においては、発言には無駄がなく、論理的でユーモアに溢れていた。しかし、その鋭い舌鋒には妥協を許さない強さがあったことが私の脳裏に焼き付いている。さればこそ、本学の百周年記念事業の、盛大な記念会、千葉大学薬学部百年史の編纂、百周年記念館の造営もこの会長の下に全く順調に成し遂げられたのであった。猪之鼻学舎屋根飾りの記念碑設立の事業もこの先輩の尽力に負うこと絶大であった。この粋な江戸っ子文化人のお別れ会には、各界の多数の参列者と共に、なじみの新橋のきれいどころが、心をこめてあでやかに、惜別の舞を献じていた。このシャイにして豪快な先輩の謦咳にふれることの出来なかった若い後輩達には是非、図書室にある『ふりむけば』の一読を薦める。そこでは、洒脱なユーモアにちりばめられた文章で、活き活きと温かく後輩を導いてくれる岩城謙太郎氏の裸の人柄に逢うことができるであろう。

以　上

クラス通信

昭和15年卒業（二六会）

級友岩城健太郎君の急逝は、ショックだった。続いて入山健一君の訃報。共にご冥福を深く祈る。そして当方は妻の永眠と血族２人の不帰で、悪運の年だった。ふと見回すと、わが年代の環境に、クラス会開催の気運が無いのも淋しい。クラス通信の重要性に不適当の内容になるが、ご宥恕されたい。

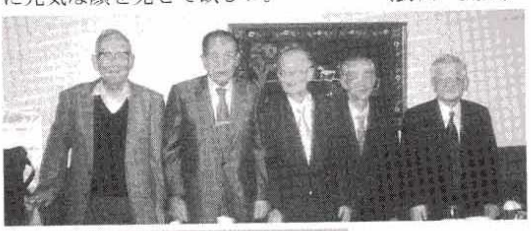
遠くなった会社員時代の師匠金子兜太監修の「元気のうちの辞世の句」あたりが共通話題になるか？友よ、これで誌上クラス会をするか。小生予定の辞世は「星乙女　勲章菊よ　さようなら」清薇。また好きな言葉・座右の銘は「命綱は俺が取る」。　（石丸　正美）

昭和16年12月卒業（宣葉会）

第53回目のクラス会を、15年10月17日に日本橋で開催、君塚、国友、西口夫妻、海東、安田の６名集り、元気な顔を喜び会ふ。今年は念願の亥鼻が丘に母校が引越す予定の由、ぜひ千葉でクラス会を持とうとの声で、古山、国友の両君と相談し、実現したい。

卒業のとき50名のクラスメートは、15名となり、80歳を越えても元気で頑張っている。昨年は岩城、宗像の大先輩が他界し、日頃ご指導を戴いた方々なので寂しい。ことに宗像先輩には俳句を教えて戴き、私の初句集「金の蕊」を霊前に捧げ、冥福を祈った。

どうか身体に気をつけて、毎年開催予定のクラス会に元気な顔を見せて欲しい。　（安田　英夫）



昭和17年９月卒業（翠葉会）

会員は満81才以上になりました。人生50年と言われた時に較べれば感無量です。卒業時46名が物故会員28名で現在18名です。毎年例会を開催していますが、今年も新宿の中華料理店に集まりました。話題は学校時代のこと、友人の消息ですが、何故か病気のことも多くなりました。秋の逍遥歌を歌って解散しました。出席は新井、伊藤、小幡、小山、戸村、中島、松家、中村の８名でした。　（中村　政治）

昭和20年卒業（るつぼ會）

平成15年６月14日　体調不順にての欠席者が目立ちましたが参加者15名いつもの会場　新宿中村屋に集いました。

定刻　横田君の司会で議事進行、会計報告、原前会長の尽力による満期定期預金の件、次回るつぼ會開催の件などを協議戴き楽しい一時をすごさせて頂きました。

年末になりまして級友　佐川安寿君の黄綬褒章受賞の知らせがはいりました。当山君に次ぎ二人目の受賞です。２月21日赤坂プリンスホテルにて級友も加え、お祝いをいたしました。　（山本　包男）

昭和22年卒業（臥豚会）

諸君!!元気ですか。今年は、旧薬専跡に大学院薬学研究院が新築、移転しました。医学部と一緒に入っています。

ところで、平成15年度の名簿に一部誤りがありましたので　級友の消息を整理してみました。生きている人を除き消息不明は　後藤、ウナンバイル、小峰（斉藤）、松田の４名です。物故者は、日下部、森山が在学中、卒後では明石、今川、大沢、狐塚、坂井、椎津、下山、高橋、土屋、戸塚、野沢、橋爪、平沢、本多、松本、吉越、和田の19名です。紙面の都合で姓のみ記しました。不悪　一つ提案があります。１）新校舎落成祝賀会の案があれば（本誌に）その時に集るか、２）９月か10月中の金曜～土曜日の正午　千葉駅に集合。午後５時ごろ解散、勿論学校を訪れます。以上どちらを希望されるか　塩崎宛電話で連絡を下さい。毎日午前８時ごろ　忘れずに千葉薬の何某と名乗って下さい。でわ、お体大切に。　（塩崎國夫）

昭和23年卒業

恒例の平成15年のクラス会は新橋『新橋亭』で開催。出席者は例年より少ない13名であった。今回は欠席者の近況報告をまとめて配布した所好評でした。

我々は昭和20年春の試験入学50名、復員編入試験入学49名計99名が入学。留年が１→２年で20名、２→３年で12名、計32名（前代未聞）で、67名が卒業。

卒後55年の15年３月迄に物故者が12名、不明者が４名。今回のクラス会案内51名中出席者13名、欠席38名（返信有り30名）でしたが、30名の内80％が病気治療中か体調不良とある。欠席者の皆さん、治療に専念され健康を取り戻し高齢化社会の中を傘寿、米寿に向け歩んで頂くと共に、年１回のクラス会に是非元気な顔を見せて下さい。お互いに頑張りましょう。今年も又残念ながらニュージーランド永住の萱場忠一郎君

(15, 6) と西千葉で開局の海野弘文君 (15, 12) のお二人が逝去された。心からご冥福を祈る。

『出席者氏名』青柳 (高)、井上 (富)、植草、大塚、岡田、小沢、清水、杉本、友田、中西、三浦、安井、渡部　　(三浦　清)

昭和24年卒業

昭和二十四年組の恒例の同窓会は、千葉県在住者が幹事役で、平成十五年五月十八、十九の両日、千葉県一宮海岸の東京薬業「くじゅうくり」を会場に開催された。

参加者十一名はやや淋しかったが、年々参加者が減るのはやむを得ない現象か？ともかくも、崎山君の挨拶、稲生君の乾杯で開会。全員で近況を話し合ったり、参加出来なかった級友からの葉書で、近況を読みあったり、殆ど貸し切り状態の会場は、アルコールが回ると共に話が弾み、賑やかで楽しいひとときとなった。最後に金田君得意のカメラで記念撮影。一次会終了後は、会場をカラオケルームに移して、遅くまで、得意の喉？を競い合った。

翌朝、酒井君から会計報告の後、次回の同窓会は、東京と埼玉の共同で開催することに決定して解散した。

(出席者敬称略) 青山、稲生、金田、崎山、酒井、高柳、宮内、峰島、山岸、山本、山倉　　(峰島　記)

昭和25年卒業

平成15年10月７日、新橋亭新館において、恒例のクラス会をおこなった。残念なことに、出席を予定されていた方が怪我をされたり、急用ができたりで、最終的に集まった級友は９名、人数的にはやや寂しいクラス会だったが、それでも会場では１年ぶりの再会に、互いに旧交を温めた。また佐子兄より労作「千葉薬学25年会記録」(ＣＤ－Ｒ版) が披露配布され、なつかしい写真の数々に、時が経つのを忘れた。

次回は参加を期待していた中村昭郎兄が年末20日に亡くなられた。残念。心からご冥福をお祈りする。

(松本　宏)

昭和26年卒業

平成16年４月14日 (水)、例年通り、熱海市の山木旅館で、26ゐのはな会が開催されます。近年顔触れが殆んど同じと云う現状ですが、年一回元気な顔を会わせて一夜を語り合う楽しみに、万障繰合はせての出席を期待します。この１年悲報もなく喜ばしい限りですが、加令による病いの声も増えつつあると思はれ、益々の御自愛を切望します。　　(福島　記)

昭和28年卒業 (千葉薬二八会)

年の経つのは速いもので、私共は昨年、平成15年３月に卒後50周年 (半世紀) を迎えました。お互い古希を過ぎ、早い方は喜寿を迎えた方もおりますが (戦後の学制改革で５歳程の幅が有り)、卒後毎年親睦クラス会、５年毎に旅行や文集、10年毎に記念旅行・写真集を作って友情を暖めて参りました。

今回は50周年と言う節目と成りますので、記念旅行と記念写真・文集を編纂する事に致し、折り良く亀田君がパソコン編集に経験が有る事から引き受けて頂け、更に宿泊先までお手配下さる等、お世話になりました。この誌上をお借りして改めて御礼申し上げます。

記念集会はお互いの今後の発展を期し、前向きにGo (５月)、28会の (28日) から、平成15年５月28日と致しました。新井、飯田、加藤 (浩)、亀田、岐部、久我、坂口、進藤、鈴木 (豊)、高橋 (明)、塚田、林、尾中、それにカナダ・バンクーバーから桑原、又内科を開業老人施設の医療を兼務している為、欠席の返事だった大島が、何とか都合をつけ宴会の始まる直前、突然現れ会を盛り上げてくれました。結局15名が集まり、亀田君の努力の結晶である写真・文集も配られ、半世紀の積もる思い出に花を咲かせました。

翌日は地元一の宮の久我君の案内で、岬の灯台の眺望、上総一の宮の参拝、そして若き日学問に励んだ「ふるさと」・猪鼻が丘の旧校舎跡の大学院建設現場を訪れ、懐旧の情と千葉薬の更なる発展を祈りました。

末筆ではございますが、卒後この方50年「千葉薬二八会」として纏め、世話をして下さった今野兄が、その頃体調を崩され、この記念集会にも参加出来ず誠に残念でしたが、50周年行事を終えて安心されたのか、去る８月24日永遠の旅路に先立たれました。永年のご苦労に諸兄共々感謝し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます (合掌) 有難う御座いました。(尾中　喜代治)

昭和29年卒業

平成15年９月18日、今回は新しい丸ビルの「福臨門」でクラス会を開催した。

出席者は、(写真上段左から) 岡沢、佐藤、村松、夏目、光岡、千代、山崎、久保田、道広、本多、今野、(下段左から) 山本、渡邊、比留間、山脇夫人、山脇、比留間の17名。それぞれ現況報告や薬学教育について

のビジョンなどを語り楽しい一時を過ごした。特に山崎君の絵画に就いては是非拝見したいと希望している。

早いもので今年は、卒後50周年になる。「50年を語り合う会」を盛大に行いたいと企画している。

最後に残念な事だが、平成15年11月に佐野一雄君が亡くなられた。心からご冥福をお祈り致します。

（比留間　和夫）

昭和31年卒業（三一会）

平成15年のクラス会は佐渡で開かれ、参加者は24名であった。70歳を振り返るメンバーが増え、薬学から健康科学に関する論議が多くなった。薬学や医学など生物学分野は遺伝子解析の進歩により、ウイルスでも細菌でも詳細な比較が可能になり驚いている。ＩＴ分野の進歩により、高齢者もついにインターネット世代の仲間に入り、携帯電話の時代に飲み込まれてしまった。まだしばらくは、科学のさらなる進歩に追いついて生きたい。薬学部の発展を期待している。

（星　昭夫）

昭和32年卒業（32会）

まずお知らせせねばならぬことは、昨年、板橋光司郎君が亡くなったことです。氏は千葉薬を卒業したのち、更に医学部に学び、板橋産婦人科病院を経営するという活躍をしていただけに、その逝去は惜しまれてなりません。直前の３月２日に東京で開かれたクラス会に顔を見せており、訃報に愕然とした次第です。心からお悔やみ申し上げます。

もう一つの話題は、昨年10月、地方開催のクラス会が、奈良で開かれたことです。金沢、札幌そして昨年が第３回になります。万障繰り合わせて参加したのは、２名の女性を含む16名、昔話を含めた歓談で大いに盛り上がりました。翌日は、法隆寺、薬師寺を回り、時間の許す人は秋篠寺の技芸天像を拝観、興に乗った人は、興福寺の夜景を楽しみました。お寺回りばかりでどうかと思いましたが、意外に好評。齢古希に至り、見る目も若い頃と様変わりしたのか。兎も角、久し振りの邂逅を楽しめたのは、何よりの収穫でした。

（高橋　惇）

昭和33年卒業

大相撲五月場所で両国界隈が賑わう直前の、４月20日の隅田川がわがクラス会の舞台。今年は卒後45周年目で**「すみだ川・川くだり」**と名付け、舟遊びを楽しむことを企画しました。浅草橋駅で降り、神田川川岸にある船宿「三浦屋」に３時半集合、貸し切りの屋形船に27人が乗船。生憎の霧雨でしたが、なかなか風情がありました。右に浜町公園を見、永代橋をくぐり、右に聖路加タワー、左に佃・月島を墨田川から見る、大きく変貌した下町の景観に感慨一入。レインボーブリッジを過ぎたところで、しばし停泊。お台場シーサイドタウンを見ながら飲み放題・食べ放題の天婦羅、刺身に舌鼓みを打ちながら近況を語らいました。この一年、年齢相応の体調の変化こそあったものの、クラス全員大過なく、それぞれの有意義な第二の人生を謳歌していることを確認、お互い大いに喜んだ次第である。あっという間の２時間が経ち、屋形船は再び浅草橋へ戻る。時間、体力に余裕の有志は両国駅ビヤガーデンに足を伸ばし、さらに飲み、語り続けた。来年の幹事は内田・河崎さんの女性陣に決まり、元気な姿での再会を約し散会した。

（渡辺（楷）・早藤）

昭和34年卒業

前回からちょうど丸１年後の2003年６月８・９日に箱根小涌園のヴェルデの森でクラス会を開いた。曜日のせいか（？）11名（男性６、女性５）と少人数だったが、昨年腰痛で欠席した野村さんが大阪から参加し、健康であることに皆感謝した。

宴会後、余分にとっておいた一部屋で心おきなく、現況報告を中心に昔通りあちらこちらと脱線しながら話しがはずんだ。

仕事と趣味を両立させてフル回転している人、都会と田舎で優雅に暮す人、薬免を使いはじめた人、ドラッグストアーで働いている人等々、各々が自分の道を見付けつつあるようだった。

翌日、男性は朝食もそこそこにゴルフに出かけ、そこで散会となった。女性は緑濃い山道を歩き、後羅公園や湿性花園をのんびりと散策してから帰路についた。

２年関東地方が続いた上、今年は卒後45周年となるのだが、次回について何も決まらぬままにおわってしまい心残りである。

（安部、佐藤弘、西井戸）

昭和35年卒業（珊瑚会）

４月12日（土）、午前11.30分ここ数年間悲報もなく皆様元気に会員23名聘珍楼溜池山王店に集合いたしました。本場の中華料理を堪能しながら、今回は退職教職者の皆様、今成さん、八森さん、吉沢さんらの教職活動における色々な出来事や苦労話やエピソードや、特に国立大学の法人化問題等を楽しく拝聴致しました。最近は土、日、は営業している所が少ないので同じ場所で和気あいあい二次会も行い、時間の経つのも忘れ楽しいクラス会でした。

（前田　孚）

昭和36年卒業（三六会）

恒例になっている小旅行は、11月22～23日に東美濃の明智町、岩村町を訪ねました。今回は13名の参加で、

旅行は好天に恵まれ、初めて参加した私も、懐かしい気持ちに浸りながら、旧交を温めることができました。クラスの全員がこの３月で65歳を越えることになりますが、薬剤師としての知識・経験を生かし、現役で頑張っている人が多いことを心強く感じました。

森崎さんのご厚意で、クラス会返信のコピーが、村上幹事の手紙に添えられて皆様のお手許に届いている事と存じますが、李君を訪ねる台湾旅行が実現したら、大勢で参加できたらいいなと期待しています。

（斉藤　諄一）

昭和37年卒業

近年毎年行っています年一回のクラス会は、平成15年10月26日、日比谷公園内の松本楼で開催されました。参加者は21名、秋晴れの穏やかな日、楽しい一時が過ごせました。出席できなかった人も含めて今年は全員元気で仕事に、趣味にと活躍されている様子を伺い何よりと安心した次第です。写真は当日撮影したものです。

（池田　守男）

昭和38年卒業（三葉会）

昨年のクラス会は卒後40周年を記念して上原さんの地元沖縄で開催。幹事の上原、原口さんはじめ皆さんのご協力で何のトラブルもなく沖縄を存分に満喫してきました。

参加者は特別参加の坂井進一郎先生ご夫妻を含め総勢22名でしたが、二泊三日のゆったりした日程で平和祈念公園、首里城、美ら海水族館、那覇市内散策、希望者によるゴルフ等々、天候にも恵まれて心地よい休日を過ごしつつ旧交を温めました。連泊してのクラス会は初めてでしたが、お蔭でより学生時代に戻れたような気がしました。

今後のクラス会の予定ですが、今年は林さんにご尽力いただいて懐かしの亥鼻地区へ再移転した薬学部の新学舎の見学も含めて千葉地区で、来年は荒木さんの地元青森方面での開催を計画していますのでご出席方よろしくお願いします。開催の日時や行楽地等ご希望がありましたらご連絡下さい。

（鷲見　常夫）

昭和39年卒業

卒業の年には東京オリンピックが開かれていますから卒業後丁度40年になります。クラス全員が既に数年前に還暦を迎えており、第一の人生を了えて、第二の人生を始めておられる人もいます。学内でも、卒業以来一貫して薬学部に精励して来られた坂井君が定年でこの３月には退職されます。私達は薬学部発祥の地、亥鼻校舎を卒業しましたが、その後間も無く薬学部は現在の地、西千葉へ移り以来37～8年に渡り西千葉に存在して来ました。しかし、どうやら組織にもＤＮＡがあって帰巣本納が刷り込まれているらしく、薬学部は再び亥鼻の地へ戻ることに決り、新校舎の第一期工事も完了して、薬学部の丁度半分がこの４月から亥鼻新校舎へ移転することになりましたが、今回、亥鼻へ移られる五十嵐君が、早速、新校舎のお披露目を兼ねて、この４月にクラス会を開催される予定で、張り切っておられます。

（藤本　治宏）

昭和40年卒業

２年前のクラス会の報告で恐縮です。平成14年５月18日（土）に、齋田（旧姓：川辺）澄江・森田（旧姓：小林）輝子両氏のお世話で６年半振りのクラス会が開催された。

場所は御茶ノ水の「銀座アスター」。出席17名（出席率42.5％）。はがき等による近況報告は40名中32名よりあった。

中澤氏が30数年振りに奈良県から出席し、自らの変貌も棚に上げ同級生の変わりように驚愕して「一瞬会場を間違えたかと思った」などとコメントし皆を笑わせた。たまたまアフリカのザンビアから一時帰国していた五月女（旧姓：大野）氏も参加（昨年帰国）。

歓談の話題は、クラスメイトの消息・近況、定年退職のこと、健康のこと、孫のこと、余生の過ごし方など。

次回幹事を選任し、２年後（今年）に再会することを確認して散会。

（平野　武明）

昭和41年卒業

昭和41年度卒の我々も遂に還暦を迎え、卒後38年。長いような短かいような。細々ながらも年金も受給出来そう、とは云え、まだまだ若いぞとゴソゴソとタンスから古い薬剤師免許を引っ張り出しての再就職。又孫の世話で悠々自適の生活、嫁から姑に進化しての嫁いびり？等々。まぁ一色々な第二の人生を模索中と相成りました。

昨年は、恒例の同窓会を雪の草津温泉で決行。女性連は二泊のセレブな旅となりました。一方、男性連は家庭第一、早々の退散となりました。いつもの集り、いつもの話題、変化のないのもまた喜し。

薬学部も猪鼻の台地への里帰りとのこと。我々にとっては、懐かしの学舎の地。是非、一度訪れたいものと思っております。

（深草　佑一）

昭和46年卒業

西千葉移転後の最初の１年生でしたのが37年前、全員55才を越え子供の話より孫の話に関心が移る世代となりました。薬学生の実務実習で重要な役割を果たし

ておられる前納氏（前納薬局）は今年度より「千葉大学薬学部臨床教授」として活躍いただくことになり、誠にご苦労なことであります。奈田氏は北京の第一製薬・工場長として昨年のＳＡＲＳ騒動にもめげず現地で陣頭指揮にあたられております。また、原田氏は、今年の薬学会で学術貢献賞を受賞されました。昨年10月末には渡辺智俊氏の訃報に接し、今は冥福を祈るばかりです。「おーい村松に久しぶりに会ったぞ！お前らも早く来いよ！」との冥土からの元気なお呼びが聞こえる気がしています。　（山本　恵司）

昭和47年卒業

卒業して32年、ここ10年調剤薬局に勤務していましたが、昨年船橋市議になりました。全く分野の異なる職場へのトラバーユですが、私の一番長い経歴である、専業主婦の活動の延長とも言えます。３人の子どもを育て、ＰＴＡや生協などの地域活動、ボランティアに参加し、19年間充実した日々を過ごしました。薬剤師としても、この経験を生かすことができました。患者さんの話を聞く、子育ての不安を理解する、スタッフ同士の気配りなど、良好な人間関係を築くことが全ての基礎だと思います。

所属の「市民ネットワーク」は、生協運動が母体の政治団体です。東京や神奈川にも同様のグループがあり、生活者の視点で政治に参加しています。しかし政治の世界は特殊で、ストレスも多い毎日です。慣習や建前が主流の場に、論理的、科学的な考え方を吹き込むべく、努力を続けたいと思っています。ホームページ（http://www9.ocn.ne.jp/~okei/）をほぼ毎日更新していますので、ぜひご覧ください。（槇　啓己子）

昭和51年卒業

この会報がお手元に届くころには、クラスの皆がしぶとく半世紀を越えて生き抜いてきた仲間達ということになりますね。とうとうこんな年になってしまったか、と感慨深い今日この頃です。昨年あたり“テレビが50年”などと賑やかに放送していたようですが、少しアカデミックな話題としてＤＮＡの二重らせん構造の提唱から50年という年でもありました。

さて、我薬学部にとっての大きな話題は亥鼻キャンパスへの移転でしょう。医学部のそばに大変立派な校舎、医学薬学総合研究棟（地上10階、地下１階）が建ち、現在（２月）引っ越し作業が進行中です。しかしながらまだ半分の研究室は西千葉に残り、第２期の建築を待っている状態です。あの少し煤けた校舎、緑一杯の薬草園、そしてヒーヒー言いながら定期試験を受けた講堂もまだ健在ですので、どうぞ今のうちに見納めにいらして下さい。

そして心も身体もいたわりながら、次の50年を目指しましょう！？　（渡辺　敏子）

昭和55年卒業

今年もまたクラス通信の季節がやってきてしまいました。月日の経つのは本当に早いものです。私は昨年３月までの１年間ロンドンで楽しく遊んで暮らしていました。１才の子連れで暮らしてみたロンドンは観光で行くのとはまた違った面白さでしたよ。子供を連れていると周りの人が日本にいるより気楽に色々と話かけてくれるので楽しかったでした。また、子連れで行くと並んでいる展覧会でも並ばずに入れるし、席はすぐ譲ってくれるなど弱者に対する思いやりがしっかりしている社会だというのを実感しました。４月に帰国後は仕事に復帰し、子供は保育園に行きはじめるし、仕事は忙しいし、当直はあるし、試験（リハビリテーション専門医、今ごろになっても試験を受けるとは・・）もあるし、「なんだかなー」といううちに今に至ってしまいました。来年こそは余裕を持って色々な人に登場してもらうつもりでいるので期待（覚悟？）して下さい。　（朝比奈　真由美）

平成９年卒業

昨年11月23日、西村君のご尽力で、けやき会館において久し振りに同期会を開催いたしました。30名ほど集まり盛況な会となりました。出席者は以下の通りです。伊藤×２、岩井田、上村、臼野、榎本、斉藤、佐々木、佐藤、重信、白土、角野、高橋、竹中、竹之内、田村、豊留、内藤、中幡、西村、長谷川、林、深澤、福田、藤崎、増田、松水、山浦、山口、山本彰子＆茂貴（敬称略、旧姓）一人一人近況報告を行い、最後は集合写真を撮ってお開きとなりました。とうとう全員三十路となるのに既婚の人が割と少ない（特に男性）ことは意外でした。皆さんほとんど変わらず、お元気そうで何よりでした。幹事の西村君に感謝です。今回出席できなかった方のためにも、また開催したいですね。なお、話は違いますが、名簿作成の際には皆さんに多大なるご協力をいただき、おかげ様でかなり正確な名簿を作成することができました。この場を借りてお礼を申し上げます。　（伊藤　貴夫）

支部だより

◉東京支部

２年毎の総会を、平成15年11月14日（金）日本橋倶楽部に於いて開催した。山本恵司院長、上野光一教授の講演と懇親会を行い、およそ50名の出席者があった。幹事の皆様のご協力に感謝いたします。平成16年４月より、国立大学独立法人として、新しい大学が発足することとなり、高層の新校舎も創立以来かつて校舎があった亥鼻の地に竣功した丁度よい機会であった。しかし、平成に入ってからの卒業生が参加されていないのが少々淋しいものだった。次回は是非ご参加願いたい。

卒業生は社会に出て、自身の努力と共に大学の誇りを持って、仕事に従事してきたであろうと考えると、新しいシステムの大学に対して、卒業生は以前に増して関心を示し、支援をする必要があると思う。

平成17年秋に大学の成長を楽しみにしながら次回の総会を開く予定である。　（渡辺　楷）

◉神奈川支部

本支部久々の会合が、去る２月14日土曜日の午後に、横浜市内ＪＲ根岸駅前にある神奈川県総合薬事保健センター（神奈川県薬剤師会所有）で開催いたしました。呼掛けを県薬に加入している同窓生に重点を置いた為、ご案内が少なかったので、お集まりも約30名でした。然しながら、久しぶりの出会いでもあり、和気あいあいとした会合でした。

「どう変貌するのか　我が母校」と題して山本学部長からご講演を頂きました。本年４月から、元の学部があった亥鼻ヶ丘に10階建ての建物が完成し、新たなスタートが切られること、６年制への取組みなど大変有意義な講演を頂戴いたしました。講演会後の懇親会においては、本年80歳を迎える永利先輩（19年卒）に乾杯の音頭と同期の茂木先輩に終宴の挨拶を頂戴し、再会を約し散会しました。

支部長：村瀬　一郎（Ｓ38年卒）

ゐのはな山岳会

ゐのはな山岳会は'04年、発足45周年を迎える。山行の範囲は、ふだんは関東、甲信越、東北の各地、年に一度ぐらいは関西方面にも脚をのばしている。'03年は三浦半島大楠山、奥武蔵皇鈴山とハイキングからはじまり、雪の奈良倉山、満開のカタクリ御前山、シャクナゲの花のなかった御座山、ツツジの霧ヶ峰、花いっぱいの会津駒ケ岳、岩峰とお酒の八海山、伝説の稲含山、東京の水源笠取山、手強かった蕨山、年末は陽光の高松山に終った。ほかに有志が春には甲府の花桃と桜と精進料理を愉しみ、夏は北海道利尻岳と礼文島をたずねている。冬にはスキーにも出かけています。夏の納涼会、年末の忘年会は大賑わいとなります。

今年はすでに鎌倉、刈寄山、千葉の富山へでかけ、夏には岩手山、秋には浅間方面などを計画しています。気軽にいらっしゃいませんか。　（清水　征生）

2004年正月　雪の鎌倉を楽しむ。六国見山で。

亥　鼻　会

最初に創立以来永く会長をされていた岩城謙太郎様が11月19日亡くなられました。謹んで、ご冥福をお祈りいたします。

さて昨年10月17日（金）に日本橋三越前の日本橋倶楽部で第22回講演会を開催いたしました。

当日は22年卒の中島良郎様のご紹介で48年卒の厚生労働省課長の黒川達夫様に「医薬品の安全性問題と副作用」についてご講演をいただきました。最近の事例から又企業のコンプライアンス及び安全性の問題など幅広く約１時間にわたりご講演を頂きました。

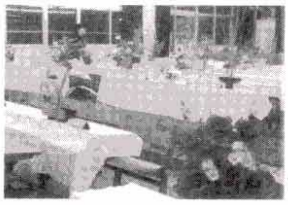
なお黒川様は医薬品副作用被害救済・研究振興調査機構の審議役もなさっておられます。出席26名

次期会長さんは昭和16年12月卒安田様、国友様にご相談の結果、昭和16年３月卒の海老沢賢一郎様にお願いしました。　幹事　井上富夫23年卒

サークル紹介

薬学華道部

はじめまして、薬学華道部です。現在私達は、毎週火曜日に薬学部講堂二階和室で、池坊流華道を学んでいます。華道というと皆さん堅苦しいイメージを想像しがちですが、お茶を飲んだりお菓子を食べながらおしゃべりをしたりと、楽しく活動しています。普段は先生のご指導のもと、季節ごとの花材で様々な型に生けていますが、お正月用やクリスマス用のお花を生けたりもしています。植物に触れることで癒されますし、お花を飾ることで部屋が華やかになります。さらに、卒業するまでには華道の免状も取得できます。毎年十一月の千葉大祭では華展を開き、日頃のお稽古の成果を発表しています。また、四号館入口をお花で彩っています。ぜひ、ご覧になってください。今年からは亥鼻でもお稽古を始める予定です。生け花はどなたでも気軽に始められます。興味のある方、なんとなく生け花をやりたいな、植物に触れたいなと思われたら、気軽に見学にいらしてください。



学部だより

2003年度　卒業生、修了生の進路

学部卒業　９２名：進学70名（千葉大66名、他大４名）、病院・薬局８名、企業５名（中外製薬、山之内製薬など）、公務員1名、その他８名

修士修了１０２名：進学14名（千葉大10名、他大４名）、病院・薬局（公務員を含む）17名、企業59名（山之内製薬４名、杏林製薬４名、万有製薬３名、田辺製薬３名、ツムラ２名、キリンビール２名、興和２名、住友製薬２名、第一製薬２名など）、その他29名

博士修了　２５名：千葉大学、University of Michigan、常盤植物化学研究所、キリンビール、微生物科学研究センター、白鳥製薬、ゼリア新薬工業、大正製薬、放射線医学研究所、理化学研究所、万有製薬、三菱化学、山之内製薬、ポスドクなど

2004年度　薬学部、大学院医学薬学府入学者

学部入学８９名（男43名、女46名）：推薦10名、前期58名、後期20名、私費外国人１名（出身県別：岩手１名、茨城５名、栃木２名、群馬１名、埼玉７名、千葉15名、東京24名、神奈川６名、新潟１名、富山１名、石川１名、山梨４名、長野４名、岐阜４名、静岡５名、愛知１名、大阪１名、香川１名、愛媛１名、高知２名、沖縄１名、韓国１名）

修士入学９９名：総合薬品科学78名、医療薬学21名

博士（薬学領域）入学２１名：先進医療科学４名、先端生命科学２名、創薬生命科学15名

○受　　賞

15. 7. 6　第11回クリニカルファーマシーシンポジウム優秀ポスター賞（日本薬学会医療薬科学部会）
「性差に基づく医療と薬剤師の関わり」　上野光一　根岸悦子　会田江美　椙山静優　土門由佳
岡村幸彦（高齢者薬剤学研究室）

15. 10. 10　平成15年度日本薬物動態学会ベストポスター賞（日本薬物動態学会）
「ＨＭＧ－ＣｏＡ還元酵素阻害剤による横紋筋融解症の候補遺伝子多型解析」　上田志朗　千葉　寛
細川正清　森本かおり　関　直人　井川佳之　亀山良雄
清水敦子　大石智春（医薬品情報学，薬物学研究室）

16. 3. 23　ベストティーチャー賞（千葉大学）　千葉　　寛（薬物学研究室）

16. 3. 28　平成15年度学術振興賞（日本薬学会）
「新規骨格構築法の開発と天然物合成への応用」　西田　篤司（薬品合成化学研究室）

16. 3. 28　平成15年度学術振興賞（日本薬学会）
「薬用資源植物を対象とした含窒素創薬素材分子の追求と合成研究」
高山　広光（機能性分子化学研究室）

2003年度　博士学位授与一覧

課程博士（甲号）

氏　名	学位の種類	論　文　題　目	授与年月日
髙橋　幸久	博士（医薬学）	細胞質因子の酸化によるメタロチオネイン核内移行の機構	2004年３月25日
佐藤　紀子	博士（医薬学）	アリストロキア酸の腎障害性に関する研究	2004年３月25日
廣川　剛	博士（医薬学）	Molecular mechanism of the post-termination ribosomal complex disassembly and the role of ribosome recycling factor in vivo（蛋白質生合成終結後複合体の分解機序とリボソームリサイクリング因子の役割に関する研究）	2004年３月25日
安村　今日子	博士（医薬学）	Novel gene targets of the hematopoietic transcription factor Ikaros（転写因子Ikarosの新たな標的遺伝子の探索）	2004年３月25日
李　鉄松	博士（医薬学）	メトトレキサートの小腸上皮細胞における輸送及び細胞障害性に関する研究	2004年３月25日
深町　利彦	博士（医薬学）	Adaptation of lymphocytes to acidic environments（リンパ球の酸性環境への適応）	2004年３月25日
小島　健介	博士（薬　学）	cDNAマイクロアレイを用いた胆汁うっ滞時ラット肝における特徴的遺伝子発現の同定とその変動機構解析	2004年３月25日
ARPANSIREE WONGMEKIAT	博士（薬　学）	FORMATION OF POORLY WATER-SOLUBLE DRUG NANOPARTICLE BY CO-GRINDING WITH CYCLODEXTRINS（シクロデキストリンとの混合粉砕による難溶性医薬品のナノ粒子化）	2004年３月25日
秋山　幸生	博士（薬　学）	真菌由来のピロン環型天然物の立体化学の決定と合成研究	2004年３月25日
石川　勇人	博士（薬　学）	アカネ科*Mitragyna*属植物含有オピオイド性インドールアルカロイドに関する医薬化学的研究	2004年３月25日
菊池　達矢	博士（薬　学）	脳局所コリンエステラーゼ活性の定量測定を目的とするPET薬剤の開発研究	2004年３月25日
SAMIR KUMAR SADHU	博士（薬　学）	Study of Two Medicinal Herbs *Leucas aspera* and *Cistus laurifolius* for their Prostaglandin Inhibitory and Antioxidant Components（プロスタグランジン阻害及び抗酸化作用を指標とした抗炎症民間薬*Leucas aspera*並びに*Cistus laurifolius*の活性成分に関する研究）	2004年３月25日
CINTIA GOULART KAWASHIMA	博士（薬　学）	Molecular and metabolic studies on the final steps of cysteine biosynthetic pathway in higher plants（高等植物におけるシステイン生合成の最終段階に関する分子的および代謝的研究）	2004年３月25日
JURIFFAH BINTI ARIFFIN	博士（薬　学）	Stereostructure and reaction of some monoterpenoid indole alkaloids; an approach from density functional theory calculations（モノテルペン系インドールアルカロイドの立体化学と反応；密度汎関数法計算の応用）	2004年３月25日
鈴木　竜哉	博士（薬　学）	アポトーシス誘起活性環状デプシペプチドポリオキシペプチン類の全合成研究	2004年３月25日
染谷　晃好	博士（薬　学）	Roles of vanilloid and cannabinoid receptors in arachidonic acid metabolism in neuronal cells（神経細胞におけるバニロイド及びカンナビノイド受容体を介したアラキドン酸代謝調節）	2004年３月25日
谷川　哲也	博士（薬　学）	新規マクロライド抗生物質 アシライド（3-0-アシルエリスロマイシンＡ誘導体）の発見とその展開	2004年３月25日
辻　理一郎	博士（薬　学）	酒石酸由来新規スピロ型４級アンモニウム塩の創成と光学活性アミノ酸合成への応用	2004年３月25日
中嶋　淳一郎	博士（薬　学）	アントシアニン生合成機構に関する研究	2004年３月25日
広木　康洋	博士（薬　学）	動的速度論的分割を利用したエリスロ型β－ヒドロキシアミノ酸の合成法の開発	2004年３月25日
吉本　尚子	博士（薬　学）	シロイヌナズナの硫酸イオン輸送体に関する分子生物学的研究	2004年３月25日
渡辺　剛志	博士（薬　学）	Kopsia lapidilectaアルカロイド、Lapidilectamの全合成研究-Heck反応を用いた環融合型置換インドールの合成-	2004年３月25日
土井　啓員	博士（臨床薬学）	サリチル酸が惹起する肝細胞への酸化的ストレスに関する研究	2004年３月25日

論文博士（乙号）

氏　名	学位の種類	論　文　題　目	授与年月日
関根　祐子	博士（薬　学）	科学的根拠に基づいた医薬品の適正使用に関する研究	2003年７月22日
野口　寿也	博士（薬　学）	新規抗リウマチ薬Esonarimodとその関連化合物の合成および構造活性相関に関する研究	2003年７月22日
増渕　みや子	博士（薬　学）	*N*－Myristoyltransferase 阻害作用を有する新規抗真菌剤の創薬研究	2003年12月25日
佐藤　和子	博士（薬　学）	大建中湯の腸管運動機能改善作用とその作用機序に関する研究	2003年12月25日
細貝　直美	博士（薬　学）	ＮＯ産生低下時におけるＮＯ－ＧＣ－ｃＧＭＰ－ＰＤＥ経路の調節機構およびＰＤＥ５阻害薬の有用性に関する研究	2003年12月25日
中村　裕義	博士（薬　学）	新生児期の薬物代謝能に関する研究－CYP3A活性を中心に－	2003年12月25日
武田　裕夫	博士（薬　学）	過活動膀胱治療薬としてのβ3-アドレナリン受容体刺激薬に関する研究	2003年12月25日
仲佐　啓詳	博士（薬　学）	抗てんかん薬ゾニサミドの代謝および相互作用に関する研究	2003年12月25日
大山　高央	博士（薬　学）	1,3-β-グルガン合成酵素阻害物質に関する研究	2004年３月10日
三谷　博信	博士（薬　学）	ウサギ動脈硬化モデルにおける血管作動性ペプチドの役割及びHMG-COA還元酵素阻害薬フルバスタチンの抗動脈硬化作用	2004年３月10日
渡邉　稔之	博士（薬　学）	毒性試験に応用可能な薬物代謝活性変動モデル動物に関する研究	2004年３月10日
多々見　真司	博士（薬　学）	アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬テルミサルタンのPopulation Pharmacokinetics/Pharmacodynamics解析	2004年３月10日

教員の異動（2003. 5. 1～2004. 4. 30）

2004. 1. 1

酒井　信夫　助　　手　採用（国立医薬品食品衛生研究所生薬部→生体分析化学）

2004. 2. 1

森部久仁一　助教授　昇任（製剤工学）

2004. 3. 31

相見　則郎　定年退職　（生体機能性分子）
坂井　和男　定年退職　（衛生化学）
奥山　惠美　退　　職　（活性構造化学→城西国際大学薬学部教授）
懸川　友人　退　　職　（生化学→城西国際大学薬学部教授）
関根　利一　退　　職　（分子画像薬品学→城西国際大学薬学部助教授）

2004. 4. 1

山本　惠司　研究院長　再任
堀江　利治　評議員
高山　廣光　教　　授　昇任（生体機能性分子）
小椋　康光　助教授　昇任（衛生化学）
斎藤　浩美　講　　師　昇任（生化学）
北島満里子　講　　師　昇任（生体機能性分子）
秋澤　宏行　講　　師　転入（岡山大学大学院自然科学研究科助手→分子画像薬品学）
佐藤　昌昭　助　　手　採用（活性構造化学）
鈴木　紀行　助　　手　採用（衛生化学）
深町　利彦　助　　手　採用（生化学）
熊谷　　宏　助教授　転入（ＲＩセンター→分子画像薬品学へ）
鈴木　弘行　助　　手　転入（ＲＩセンター→分子画像薬品学へ）

薬友会より

平成16年－17年　主な活動予定

16年　5月　会報14号発行
　　7月　役員会・総会および生涯教育セミナー
　　12月　役員会・常任理事会
17年　5月　会報14号発行
　　7月　生涯教育セミナー
　　12月　役員会・常任理事会

平成15年　活動報告

3月　新入生入会案内
（終身会員115名、含新入生87名、入会）
5月　会報13号発行
7月　第12回千葉大学薬友会生涯教育セミナー開催（千葉大学けやき会館）
「新しい治療薬とその作用機構」
（講師５名、参加者76名）
12月　役員会・常任理事会

資金協力のお願い

本会の活動を益々盛んにするために、会員の皆様に終身会員へのご加入とご寄付をお願いしております。

1）終身会員：会費２万円。昭和48年に開設（現在50％加入）会員名簿を無料にて配布します。
2）寄付：一口２千円から受け付けております。特に、終身会費が１万円であった皆様のご協力をお願い申上げます。
3）会報、名簿への広告掲載にも、ご協力の程よろしくお願い申上げます。

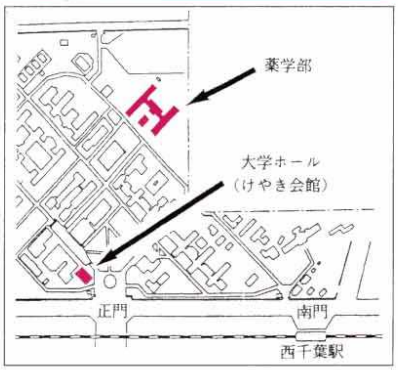
上記いずれのお申し込みも、郵便振替口座00150-5-551796千葉大学薬友会にお願いします。

各種委員会名簿

総務委員会　○山口　直人、林　万喜、中山　祐治、村上　泰興（Ｓ36）、野中浦雄（Ｓ42）、千葉　寛（前委員長：アドバイザー）
財務委員会　○村山　俊彦、堀江　俊治、平林　哲や、村上　泰興（Ｓ36）、野中　浦雄（Ｓ42）、桝渕　泰宏（前委員長：アドバイザー）
名簿委員会　○小林　弘、斉藤　浩美、深町　俊彦、村上　泰興（Ｓ36）、野中　浦雄（Ｓ42）、山本　友子（前委員長：アドバイザー）
事業委員会　○荒野　泰、戸井田　敏彦、酒井　信夫、上原　知也、西村　和洋、大川　幸子（Ｓ32）、小川　通孝（Ｓ34）、村山　俊彦（前委員長：アドバイザー）
会報委員会　○石川　勉、堀江　利治、石井　伊都子、伊藤　晃成、熊本　卓哉、有澤　光弘、佐藤　信範、小川　通孝（Ｓ34）、加藤　文男（Ｓ47）、角田　範子（Ｓ52）、山口　直人（前委員長：アドバイザー）
（○印：委員長）

厚生労働大臣許可 11-03-ム-0002
社団法人 埼玉県薬剤師会
薬剤師無料職業紹介所
登録受付日　月～金曜日（祝日・年末年始を除く）
来所受付時間　9：30～11：30、13：00～16：00
〒331-8631　埼玉県さいたま市北区土呂町1丁目50番地4
TEL 048－653－5261　FAX 048－652－6060
http://www.saiyaku.or.jp
e-mail bank@saiyaku.or.jp

第13回　千葉大学大学院薬学研究院・薬友会生涯教育セミナー（宮木高明セミナー）開催のお知らせ



日　　時：平成16年７月17日（土）13：00－17：30
会　　場：千葉大学　大学ホールけやき会館（１階大ホール）
（〒263-8522　千葉市稲毛区弥生町1-33）
主　　催：千葉大学大学院薬学研究院，薬友会
共　　催：日本薬剤師研修センター
後　　援：猪之鼻奨学会
セミナー参加費（事前予約，当日参加とも2,000円）
（参加者には日本薬剤師研修センターより３単位が認定されます）

生涯教育セミナー　「より良い医療を創る薬剤師の力」

１）北田　光一　氏
「医療事故から患者を守る薬剤師の取り組み」　千葉大学医学部附属病院　薬剤部：昭和45年卒

２）上野　光一　氏
「女と男のより良い医療のために薬剤師ができること」　千葉大学大学院　薬学研究院：昭和47年卒

３）前納　秀夫　氏
「かかりつけ薬局・薬剤師を目指す保険薬局の取り組み」　㈱前納薬局・千葉大学大学院薬学研究院：昭和46年卒

４）村瀬　一郎　氏
「地域から期待される薬剤師像」　日本薬剤師会：昭和38年卒

16：20～　**宮木高明記念セミナー講演「東金病院における医療ネットワークの現状と将来展望（仮）」**
平井　愛山　先生（東金病院院長）

17：30～（両セミナー終了後）　**「懇　親　会」**
場　所：けやき会館１階　レストラン　コルザ　**＜振込先：郵便振替口座00150-5-551796　千葉大学薬友会＞**
懇親会参加費は，事前予約は2,500円，当日参加は3,000円　セミナー，懇親会両方参加の方は　4,500円
事前予約の受付は６月26日（土）締切となっています．　懇親会だけの事前予約も受け付けます 2,500円

ご質問などは　荒野　泰（薬友会16年度事業委員会委員長）まで
（分子画像薬品学研究室，TEL：043-226-2896，FAX：043-226-2897，E-mail：arano@p.chiba-u.ac.jp）

生涯教育セミナーへのご招待：本年度は薬学部卒業後35年の1969年（昭和44年）３月，卒業後45年の1959年（昭和34年）３月，および1938年（昭和13年）以前に卒業された方々をご招待いたします（懇親会参加費につきましては別途徴収させていただきます）．該当されます皆様は，当日受付にてお申し出ください．この機会に是非母校に足を運ばれ，その変貌ぶりをご覧いただくと共に，旧友と久し振りの一時をお楽しみください．当日お時間がございましたら，亥鼻地区に新設されました新校舎へも足をお運びください．

千葉大学薬友会役員会・総会のお知らせ

日　　時：平成16年７月17日（土）　10時30分から12時
場　　所：千葉大学薬学部（西千葉キャンパス）第２講義室
議　　題：１　事業報告　２　会計報告　３　事業計画　４　その他
懇親会は同日開催の生涯教育セミナーのミキサーと合同です。セミナーの方にお申し込み下さい。

編集後記

オリンピックの記念すべきアテネ開催の本年は、千葉薬にとっても歴史的な節目を迎えます。大学は法人化され、また約半分の研究室が亥鼻キャンパスに移転して、新たなスタートを切りました。薬学６年制を始めこれまで以上に医薬連携が重要になります。残る研究室の早急の移転を達成し、千葉薬は亥鼻の地で一体となってその期待に応えるべく努力していきます。そのためにも薬友会員皆様の強力なご支援ご協力が必要です。どうぞよろしくお願い致します。　（石川）

会報委員
石川　勉（委員長）、堀江利治、石井伊都子、佐藤信範、伊藤晃成、熊本卓哉、有澤光弘、
小川通孝（Ｓ34）、加藤文男（Ｓ47）、角田範子（Ｓ52）、山口直人（前委員長：アドバイザー）